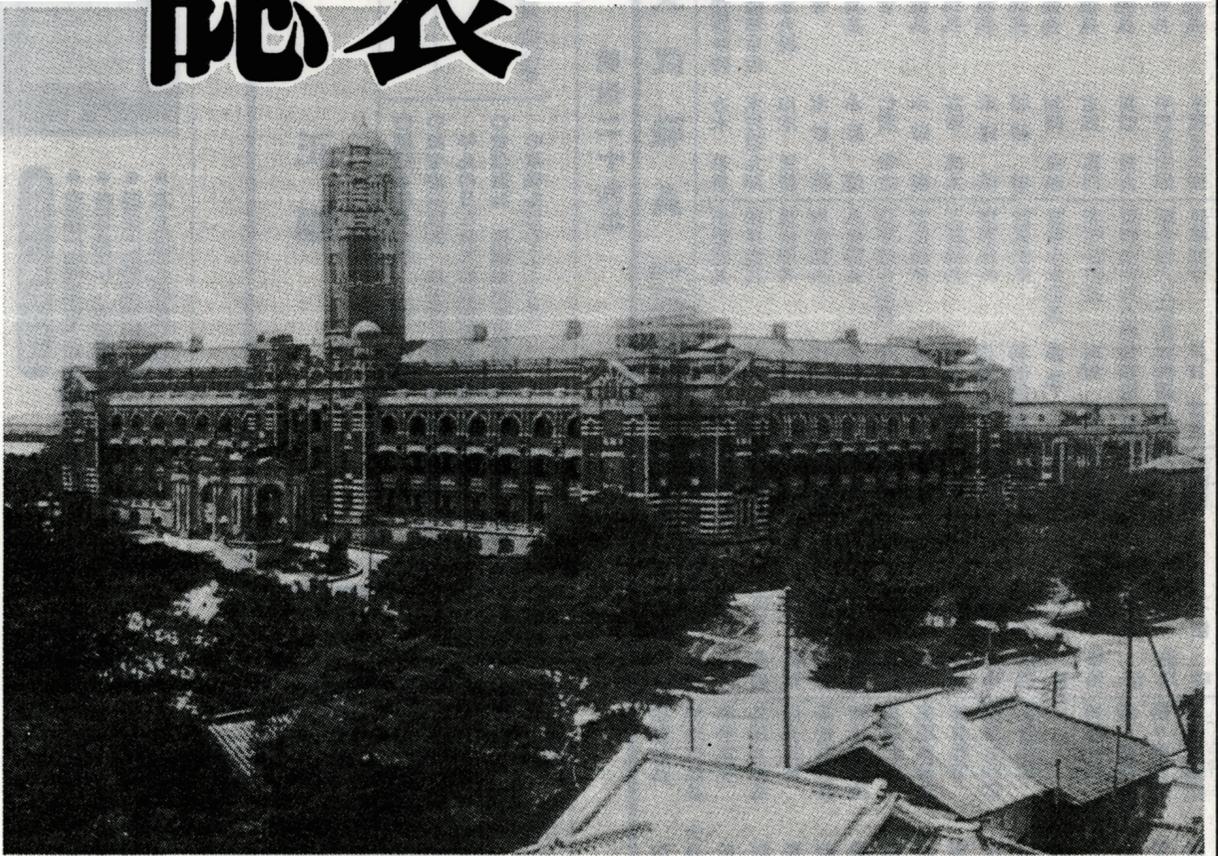


日本統治下台湾五十年の動向が
鳥瞰できる唯一の年表・日誌！

台湾大年表 台湾日誌



半世紀もの間、台湾を治めた総督府の全景

台灣日誌

監修 河原功
台灣總督府編 / 大正八年 ~ 昭和九年

大正八年

六月

- ▲二日(月)
 - 水産協議會、殖産局主催の同會は本日より總督府會議室に開かる
 - ▲六日(金)
 - 戰利品航艇來る、我が日進艦は戰利品航艇七隻を率ゐて馬港に寄港す
 - ▲八日(日)
 - 上海の暴動、排日的暴徒起りて内外工場を襲ふ
 - ▲九日(月)
 - 電力株主募集、臺灣電力會社株主募集を廣告す
 - 地方官會議、本日より開會
 - ▲十四日(土)
 - 水野道氏、二十回法要、臺灣初代の民政長官水野氏第二十回法要を圓山淨土宗布教所にて行ふ
 - 平定紀念會、臺灣占領當時の渡臺者より成る平定紀念會第四十四回例會を臺北新公園クイオンに開催す
 - ▲十七日(火)
 - 始政紀念祭、本日午前八時臺灣神社に於て始政紀念祭を行ふ、明石總督、下村民政長官以下官民百五十餘名參拜す
 - 始政紀念式と祝賀會、午前九時三十分總督府新廳會會議室に於て第二十四回始政紀念式を行ひ又午前十一時三十分より臺北新公園に於て始政紀念大祝賀會を行ひ官民二千五百名來會、午後六時三十分より總督府新廳會に於て總督府祝賀會を舉行す

- ▲二十日(金)
 - 蕃價調査會、同會官制廢止に付下村會長以下四十二名に對する行貨の御沙汰あり
 - ▲二十一日(土)
 - 包種茶輸入解禁、和蘭政府は昨年九月十五日以來の本島包種茶爪哇輸入禁止を
 - ▲二十三日(月)
 - 電力株應募數、日月潭電七百六萬七千二百一十一株のなり
 - ▲二十五日(水)
 - 獨逸財産管理令、六月二京電あり
 - 乘合自動車試運轉、臺灣運轉を行ふ
 - ▲二十七日(金)
 - 獨逸無條件調印、獨逸はすべしと傳へられクレマンソーと握手し「ア、諸機會を待てり」と感嘆す
 - 五日巴里發電
 - 新嘉坡排日鎮靜、新嘉坡三日より各商舖は再び閉店
 - 議員の南洋視察團來る、田、赤間、他の各議員末松洋視察團一行臺北に來る
 - 講和成立祝賀會、獨逸講和成立は確定の事實となり全市の大祝賀會は總督府新



日誌の構成と特色

- 本文は編集上の都合により、前半を三段組、後半を四段組とした。
- 内容は政治、經濟、文化、社会状況から学校行事等の日常生活に至るまでキメ細かく収録している。
- 「大年表」と併用すること、日本統治下台湾五十年の正確な歴史を讀みとることが出来る。而書はその唯一の文献である。

昭和五年

- ▼二十四日
 - 臺灣招待日來會者宴々
 - 富田財務局長逝去(於東京)
 - ▼二十五日
 - 臺灣公開第一日、入場者二千名
 - 臺灣輸入肥料商同業組合發會
 - ▼二十六日
 - 臺灣文化三百年紀念會開會
 - 全島中等學校劍道大會(臺北)
 - ▼二十七日
 - 午前八時頃霧社蕃人蜂起
 - ▼二十八日
 - 臺灣神社大祭
 - ▼三十日
 - 教育勸諭發四十周年
 - 米穀代行會社總會一割配可決
 - ▼三十一日
 - 霧社討伐軍部最初の犠牲死二、傷七

十一月

- ▼一日
 - 埔里郵便局非常通信事務開始
 - 石黒總督代理霧社へ
 - 午後一時マホ社占領
- ▼二日
 - 溪州神社鎮座式
 - ▼三日
 - 明治節
 - オランダ公使離臺
 - 臺灣展終る
 - 基隆郡七堵庄瑪陵坑字四勢仙洞七五陵山炭坑爆發、死傷八、原因煙草
 - ▼四日
 - 内臺海底線不通
 - 文化紀念會終了、史料展のみ三日日延
 - ▼五日
 - 兎番疲色あり
 - カソリン車正式運轉(基隆、板橋)
 - 全島一、二等郵便局長會議
 - ▼六日
 - 産業調査會出席者續々來臺
 - 霧社事件に絡む文協一派の策動者檢舉
 - ▼七日
 - 全島三等郵便局長會議
 - 土木協會幹部日月潭工事につき總督に陳情
 - ▼八日
 - 嘉義借家人組合發會
 - 馬公街水道通水式
 - ▼九日
 - 全島中等學校陸上競技大會(臺北)、臺中師範優勝
 - ▼十日

組見本(縮小)

総督府が治めた半世紀を正確に

台湾が日本の統治下にあったのは、明治一八年五月から昭和二〇年八月までの半世紀ほどであったが、その間の台湾の動向を伝えてくれるものとして、年表や日誌の類の存在はありがたい。ところが台湾については、その種の資料は少なく、参考になるべきものをあけるとすれば、台湾経世新報社から出版された『台湾大年表』と、台湾時報発行所から刊行されていた月刊誌『台湾時報』所載の『台湾日誌』である。

台湾経世新報社編『台湾大年表』は、大正一四年六月に初版が、同年一月に再版(内容は初版と同じ)が出た。その後、これに訂正増補を施し、巻末に索引を付した三版(昭和六年二月まで収録が昭和七年三月に発行された)。

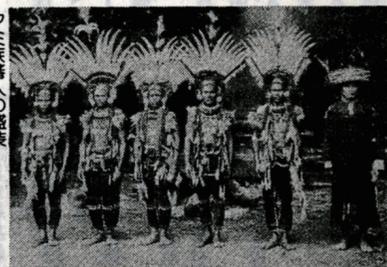
今回復刻する『台湾大年表』は昭和三年二月発行の四版(昭和一三年六月まで収録)であって、この四版の存在は、これまでほとんど知られていなかった。この四版は、三版に比べて更に訂正増補がされ、『台湾大年表』の完成版ともいべきもので、年表としての資料的価値は第一級といえよう。巻末の索引によれば、約一万五〇〇〇の事項が採録されているところである。『台湾大年表』にはまた、台湾総督府職員の主たる者が各年末に載っており、『台湾総督府職員録』のダイジェスト版としての機能も有している。

一方『台湾日誌』は、『台湾時報』所載の『台湾日誌』をまとめたものである。『台湾時報』は台湾時報発行所から発行されていた総合月刊誌ではあるが、自立した雑誌ではなく、台湾総督府の機関誌としての性格が強かった。昭和二〇年三月まで長期にわたって継続して刊行され、第三二〇二号(最終号)については未確認を数える台湾最大の雑誌に発展した。

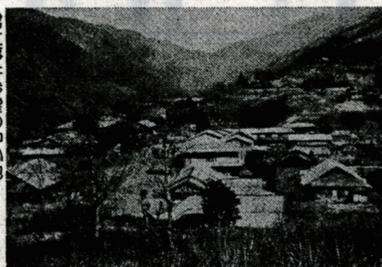
『台湾時報』の大きな特徴の一つになっていた『台湾日誌』は、大正八年六月より昭和一九年三月二〇日まで、ほぼ絶えることなく続いた。それ以降掲載されなくなった事情としては、戦局の悪化、物資の不足に伴い、四月一日を期して台湾の日刊六紙が統合されて新たに『台湾新報』となること、それに紙不足による紙数削減が影響していたことが考えられる。

とはいえ、今回の『台湾大年表』と『台湾日誌』の復刻をもって、日本統治下台湾の動向のほとんどを鳥瞰できることとなった。

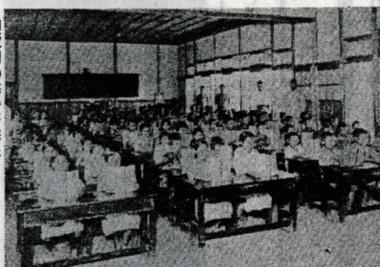
(解説より)



アミ族蕃人の盛装



霧社事件惨虐の中心地



角板山の蕃童教育所

台湾大年表 [復刻版]

原本—台湾経世新報社編『台湾大年表』昭和三年二月第四版(河原功氏所蔵)を底本とした。
収録範囲—一八九五(明治28)〜一九三八(昭和13)
解説—河原功
体裁—B5判・上製クロス装・三五八頁
定価—一六、四八〇円

ISBN4-89774-206-4 C0022

台湾日誌 [編集復刻版]

監修—河原功

原本—台湾総督府編輯『台湾時報』の巻末に付された『台湾日誌』を採録した。
収録範囲—一九一九(大正8)〜一九四四(昭和19)
解説—河原功
体裁—B5判・上製クロス装・三八八頁
定価—一六、四八〇円

ISBN4-89774-207-2 C0022

- 分売もいたします。
- 定価には消費税が含まれております。

セット揃定価三三、九六〇円(送料入り)

セット注文します。

台湾大年表・台湾日誌

ご芳名・ご住所

書店名

購入申込書